

平成19年度 住宅ローン利用に関するアンケート調査（第3回）

調査の概要

1. 調査方法

インターネット調査

インターネット調査会社のモニター51万件に対して調査対象の要件確認を行い(2/1～2/8)、これに応じた15万件のうち平成19年11月から平成20年2月の間に民間住宅ローンを借入された方1,515件に、インターネットによるアンケート調査(2/8～2/12)を実施し、先着順に回答があった民間住宅ローン利用者1,004件を調査対象とした。

2. 調査対象

民間住宅ローン利用者 n=1004

- ・借入時期:平成19年11月から平成20年2月までに民間住宅ローンを借入れされた方
- ・居住用の新規の住宅ローン(除く:借換え、リフォーム、土地のみの融資、アパートや投資用のローン)
- ・全国の20歳以上60歳未満までの方(除く:学生、無職)

3. 調査時期 平成20年2月8日～2月12日

4. 調査項目 利用した住宅ローンや住宅ローン選びに関する事項

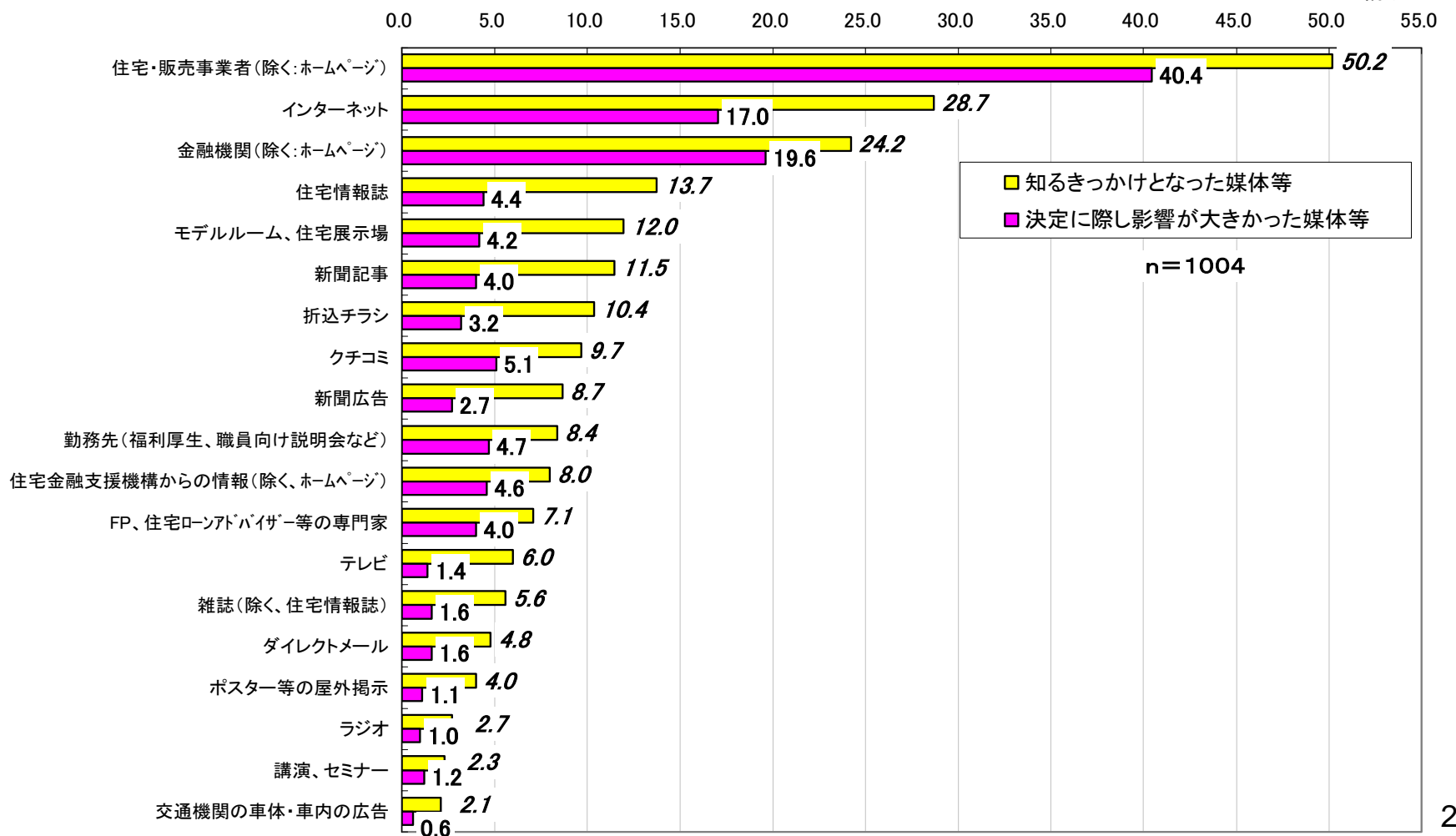
平成20年3月7日
独立行政法人 住宅金融支援機構

調査結果

1. 利用した住宅ローンと媒体等 <住宅ローン利用者>

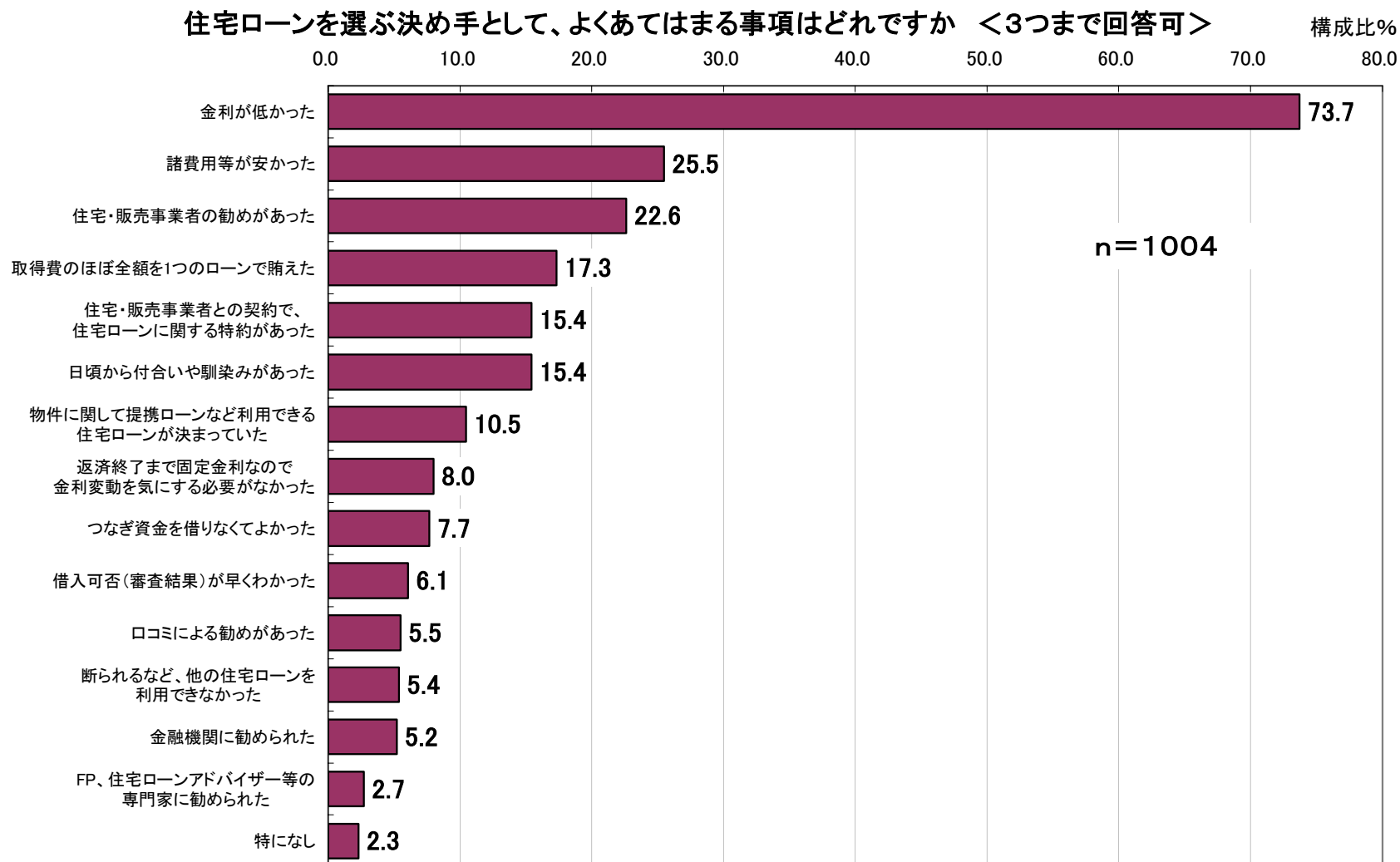
利用した住宅ローンを知るきっかけ、住宅ローンの決定に影響が大きかった媒体等は、「住宅・販売事業者」「インターネット」「金融機関」が上位を占めている。

利用した住宅ローンを知るきっかけ、決定に際して影響が大きかった媒体等<複数回答> 構成比%



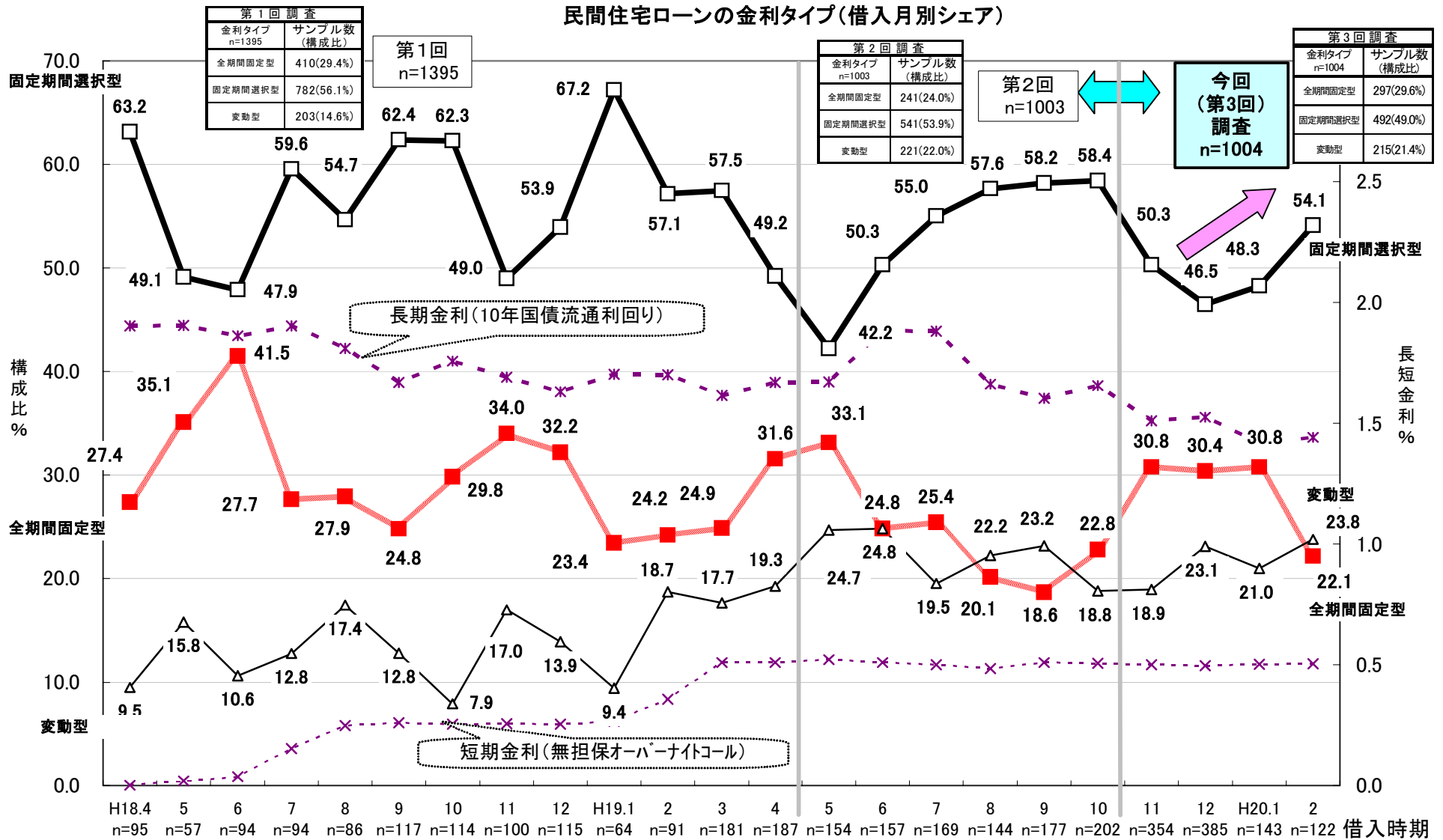
2. 利用した住宅ローンを選ぶ決め手 <住宅ローン利用者>

利用した住宅ローンを選ぶ決め手としては、「金利水準が低かったこと」73.7%と圧倒的に多く、次いで、「諸費用が安かったこと」25.5%、「住宅・販売事業者の勧めがあったから」22.6%など



3. 住宅ローンの金利タイプ（借入月別シェア）＜住宅ローン利用者＞

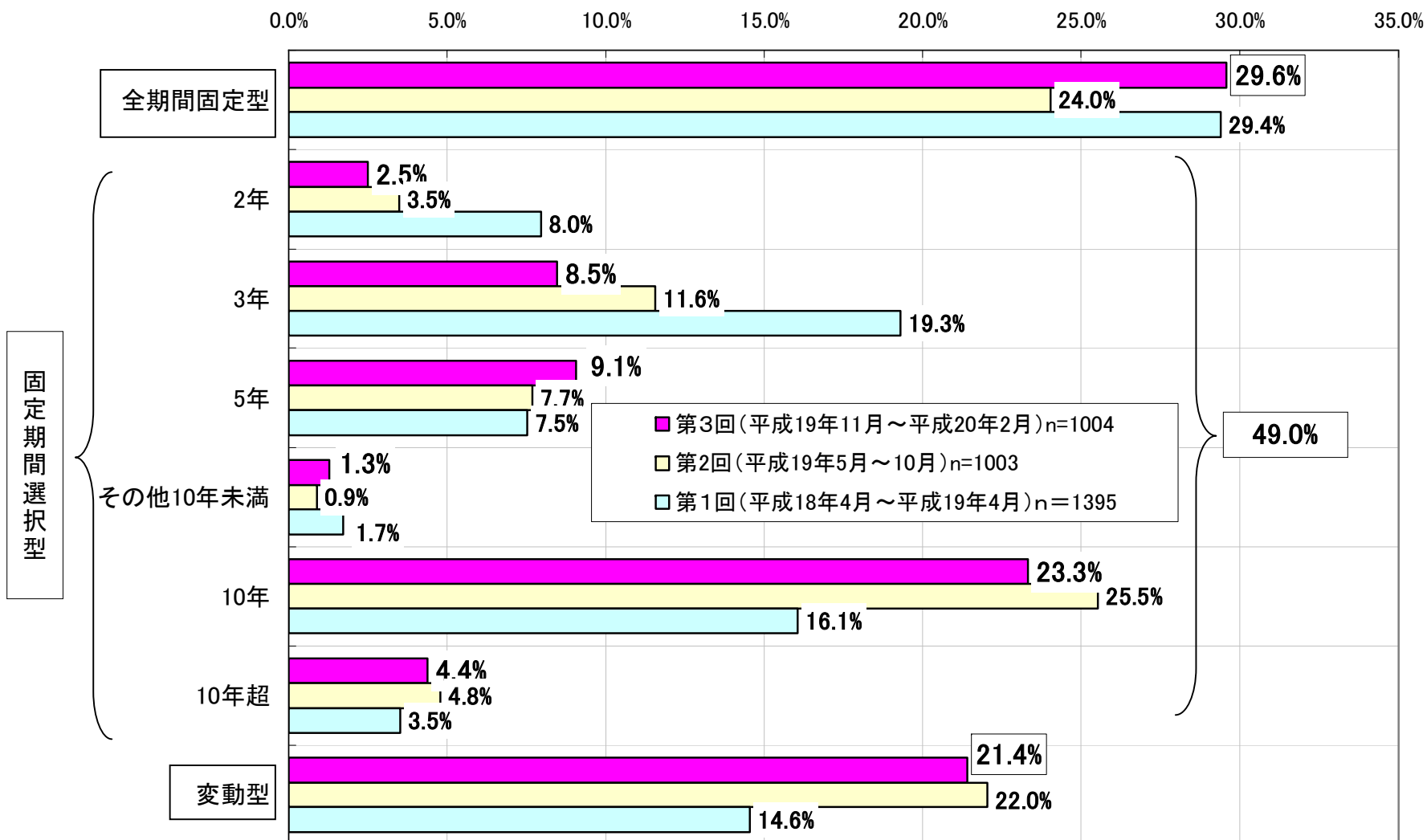
今回調査では、長期金利低下などから「全期間固定型」が30%超となったが、直近では、「固定期間選択型」が増えている。



4. 住宅ローンの金利タイプ <住宅ローン利用者>

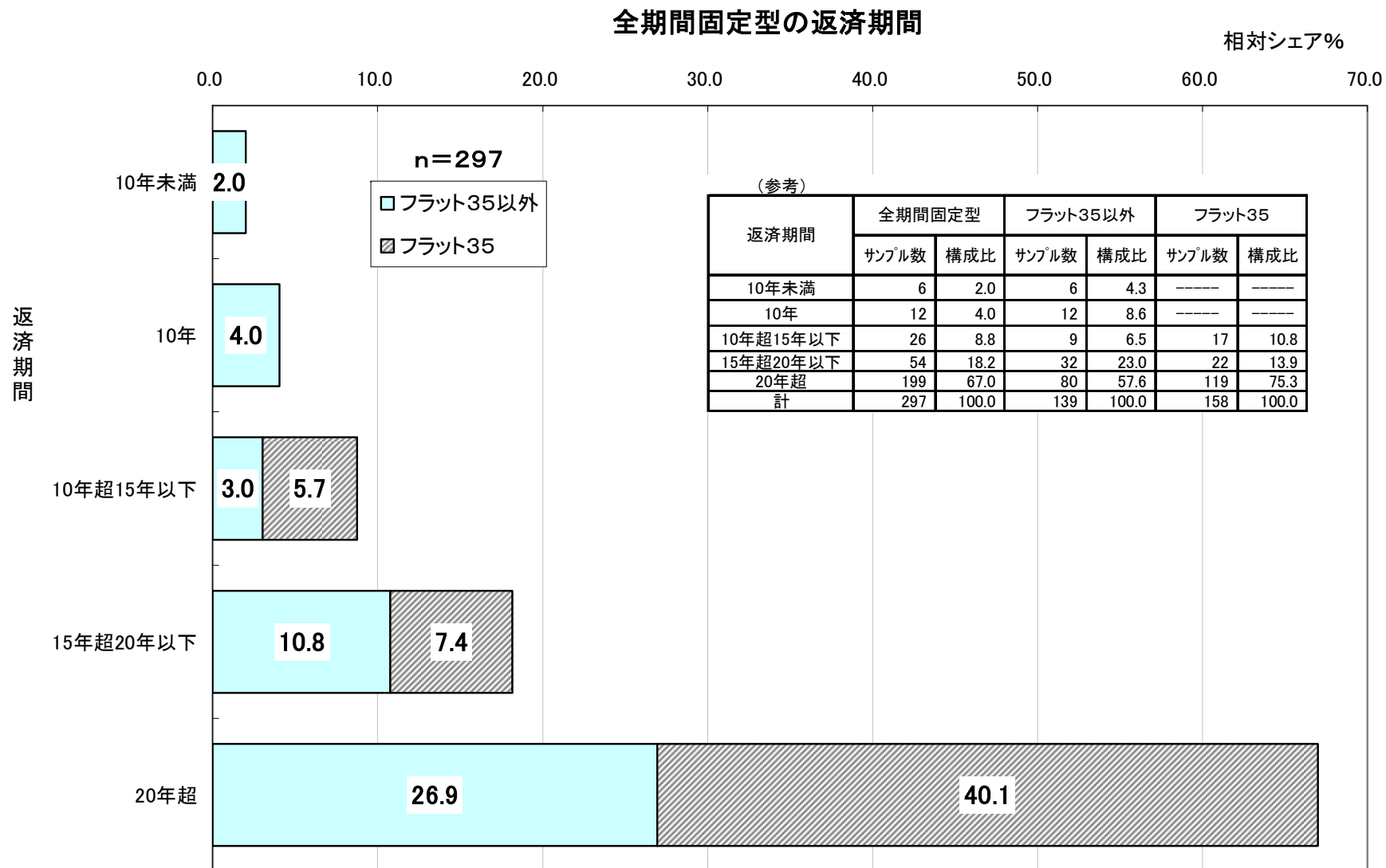
今回調査では、「全期間固定型」29.6%、「固定期間選択型」49.0%、「変動型」21.4%となっている。

住宅ローンの利用実態(金利タイプ別)



5. 全期間固定型の返済期間 <住宅ローン利用者>

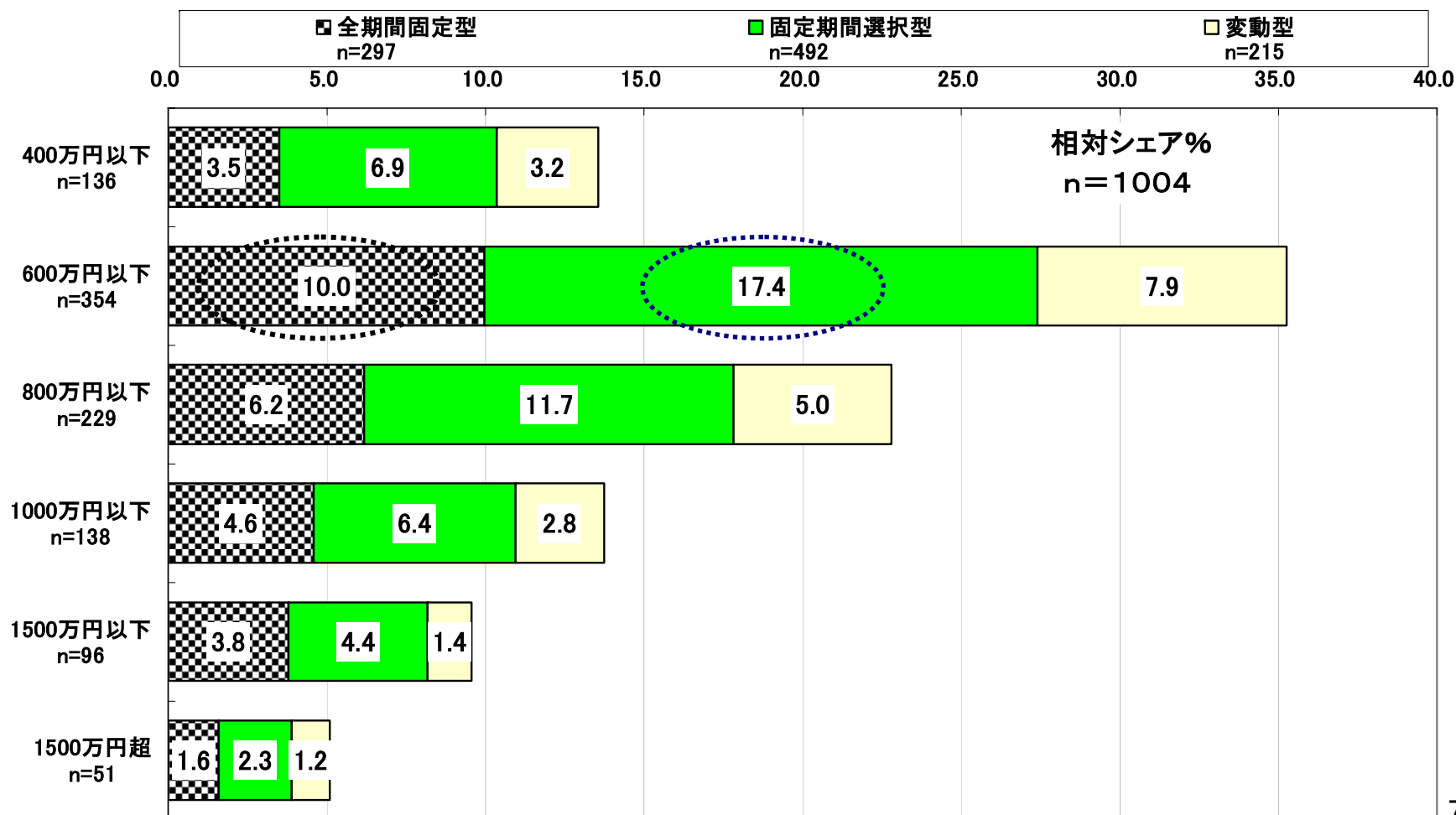
全期間固定型は、20年超が全体の67%を占めている。



6. 世帯年収別の金利タイプ <住宅ローン利用者>

住宅ローン借入世帯の年収別に金利タイプをみると、「固定期間選択型」は、年収400万円超600万円以下の収入層で最も利用割合が高い(17.4%)。また、この収入層では、「全期間固定型」の利用割合も、10.0%と比較的高くなっている。

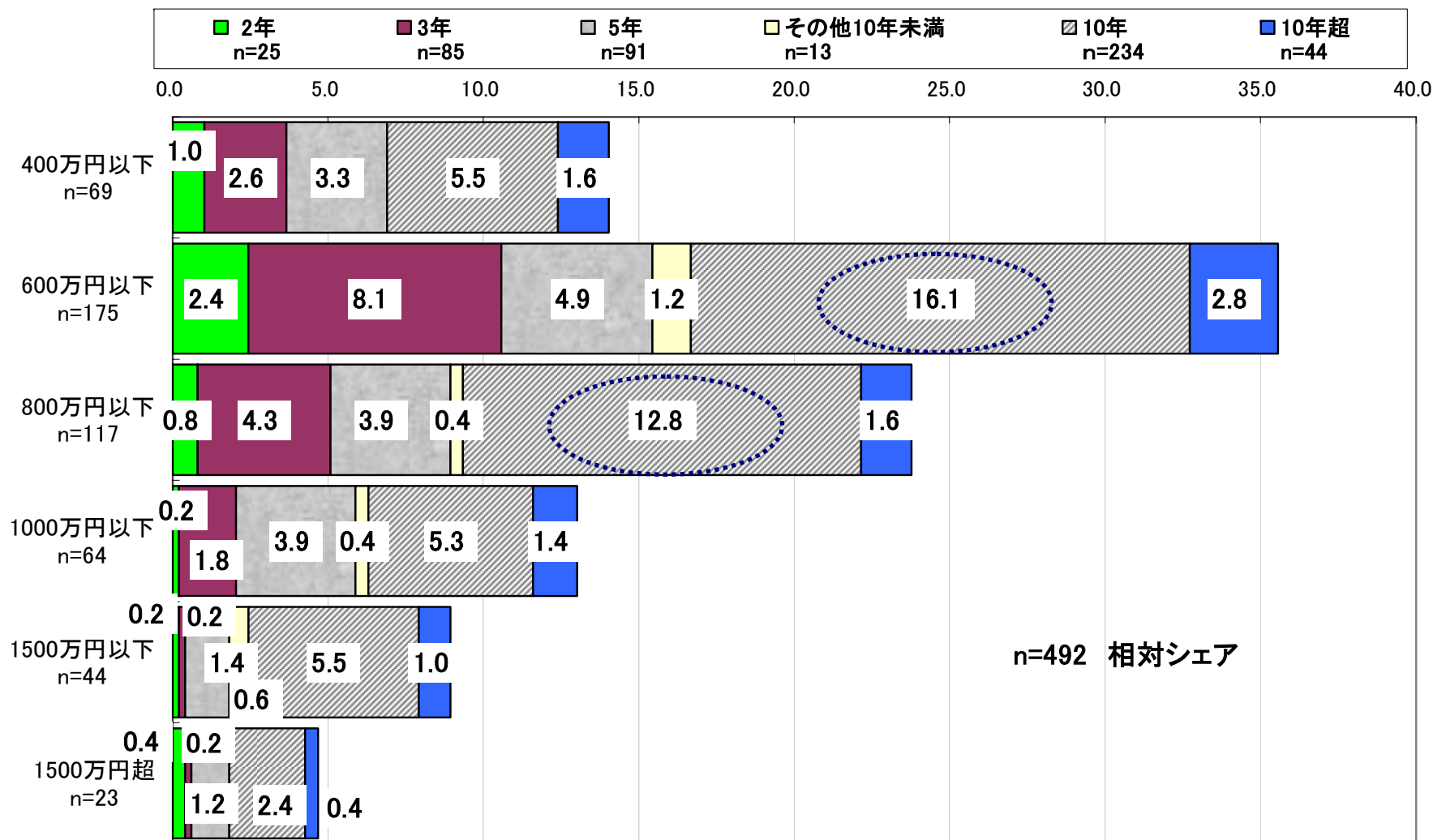
世帯収入別の金利タイプ



7. 固定期間選択型：当初金利の固定期間（世帯年収別）＜住宅ローン利用者＞

住宅ローン借入世帯の年収別に、固定金利選択型の当初金利の固定期間をみると、年収400万円超600万円以下の収入層と、年収600万円超800万円以下の収入層で、固定期間10年の選択割合が高い。

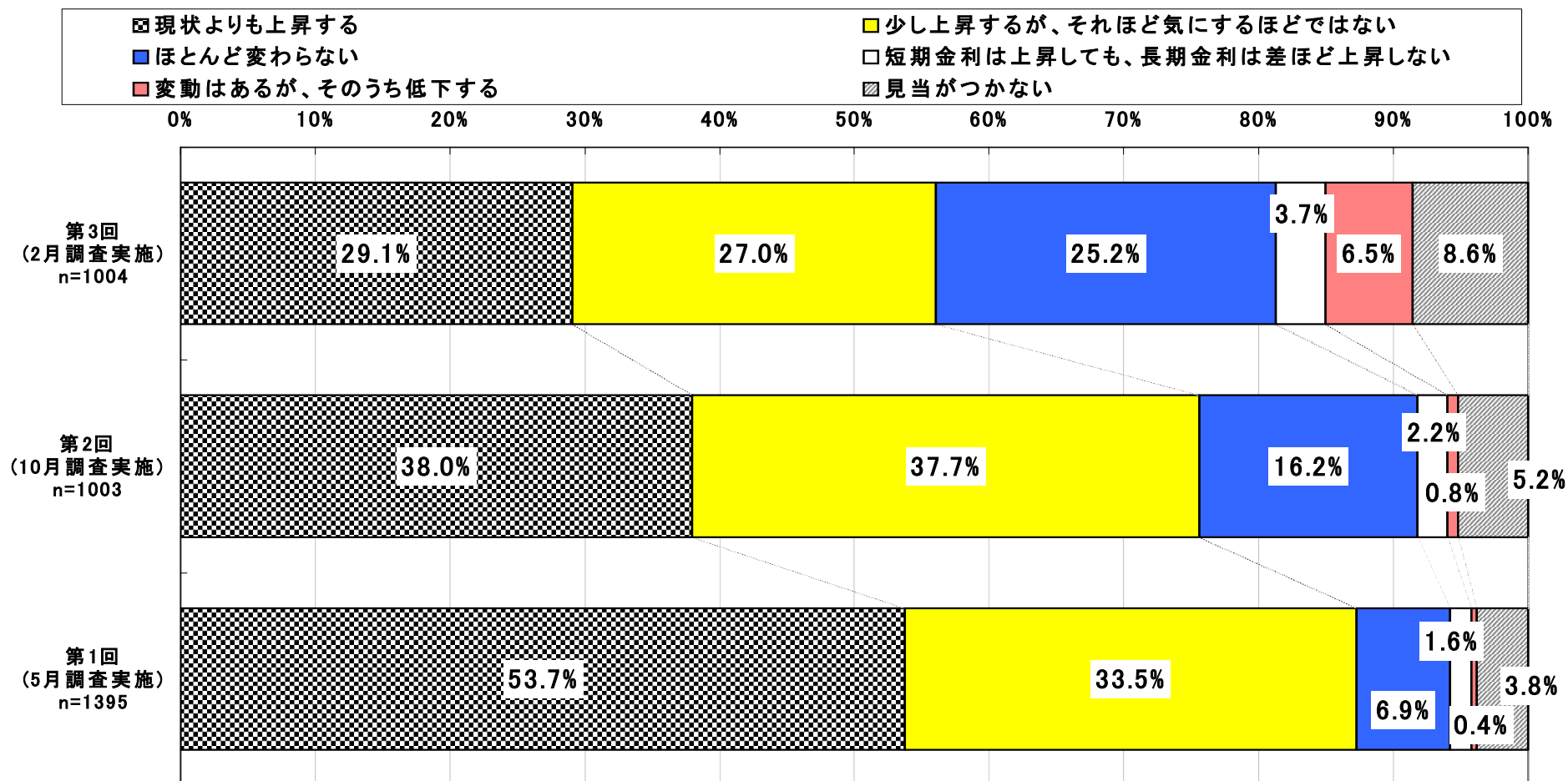
（固定期間選択型）世帯年収別の当初金利の固定期間



8. 今後の住宅ローン金利 <住宅ローン利用者>

今後1年間の住宅ローン金利見通しは、「現状より上昇する」が29.1%に減るなど、金利先高感が弱まっている。

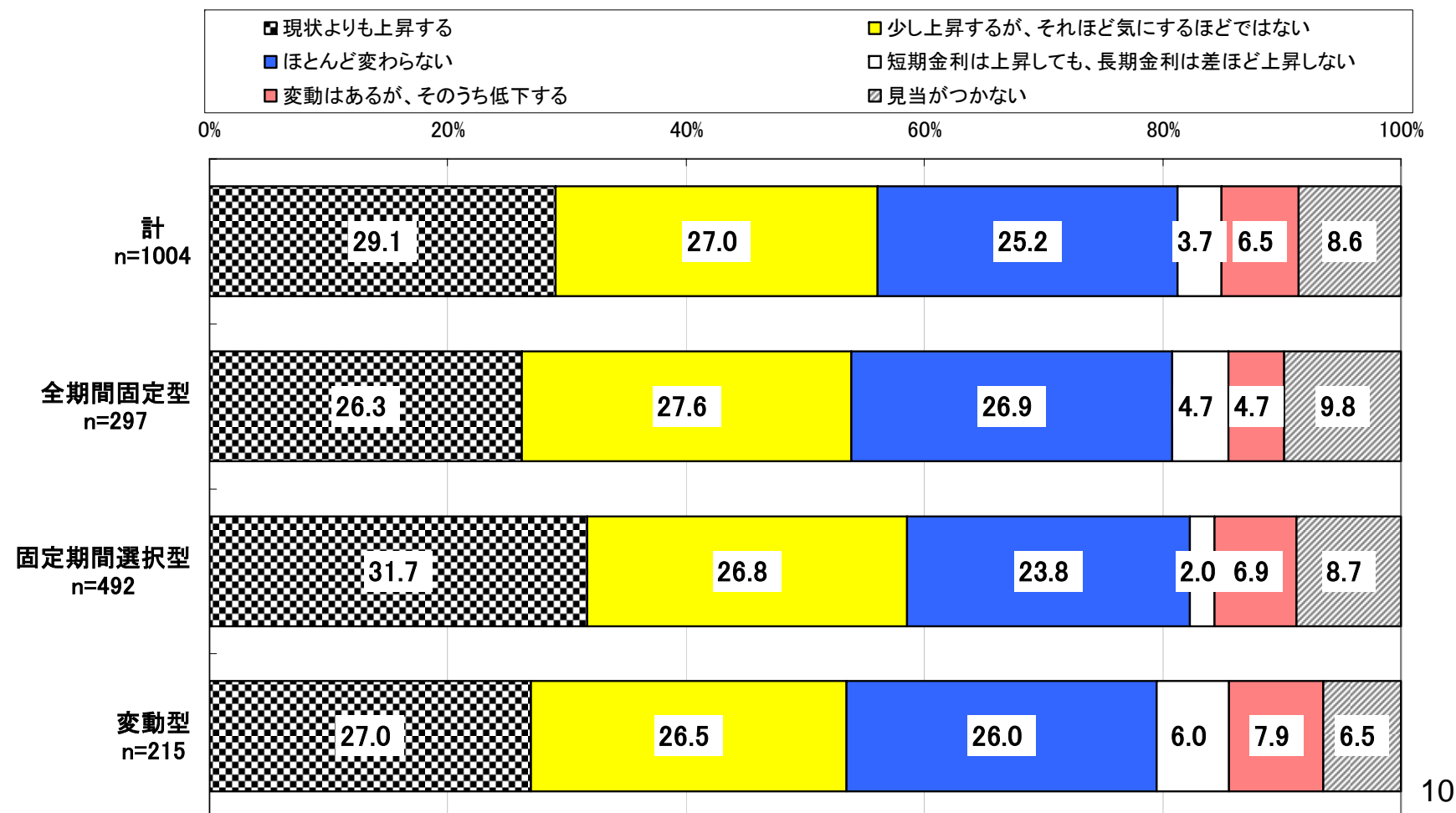
今後1年間の住宅ローン金利見通し



9. 今後1年間の金利見通し（金利タイプ別）＜住宅ローン利用者＞

金利タイプ別の今後1年間の金利見通しでは、概ねよく似た傾向だが、「固定期間選択型」では、31.7%とやや高くなっているが、これは固定期間選択型の47.6%を占める「10年固定」での上昇見通しが影響している。

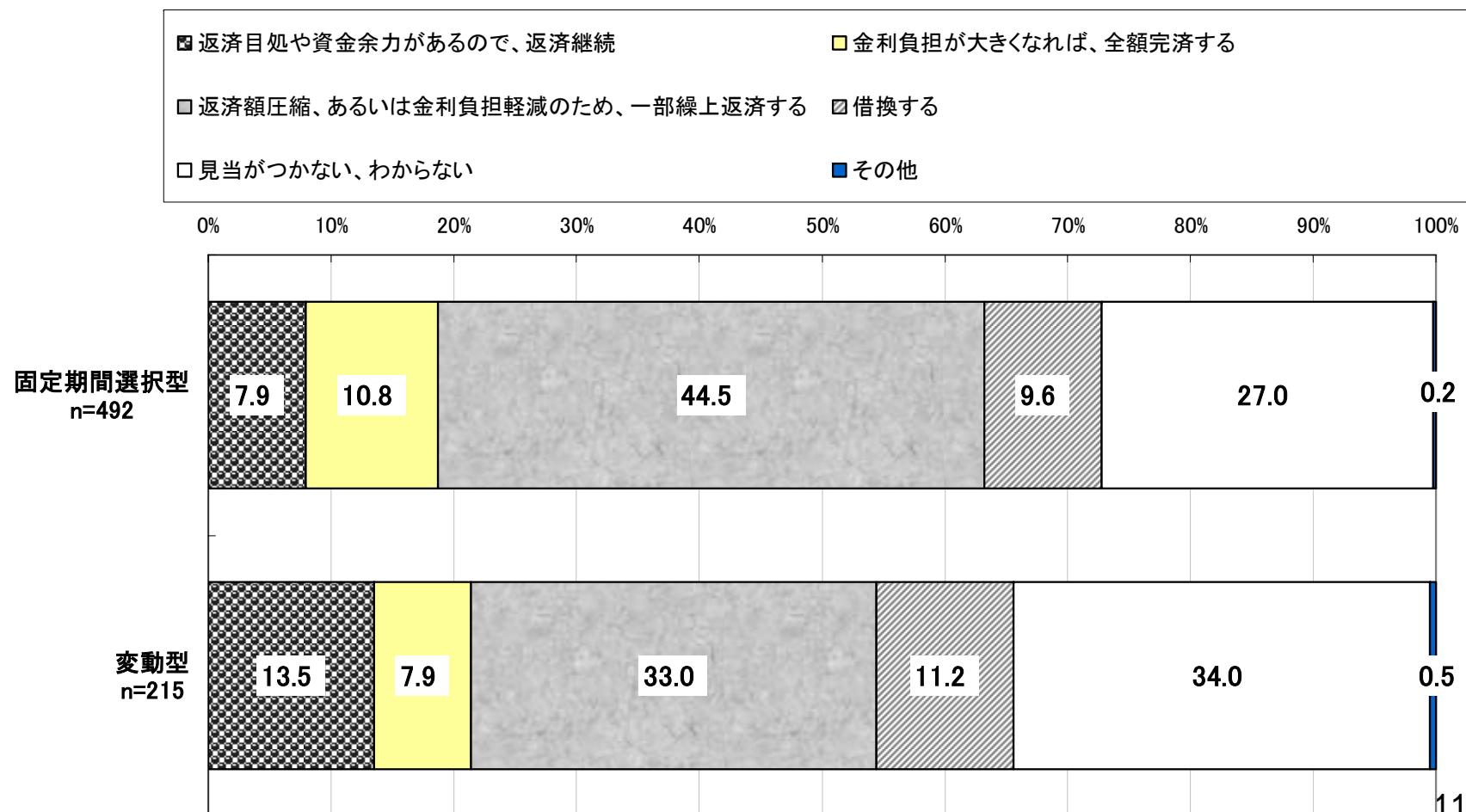
今後1年間の金利見通し(金利タイプ別)＜住宅ローン利用者＞



10. 金利上昇に伴う返済額増加への対応<住宅ローン利用者>

返済中の金利上昇に伴い、毎月返済額が増加した場合の対応として、最も多かったのは「一部繰上返済」で、固定期間選択型では44.5%、変動型では33.0%。
なお、「見当がつかない、わからない」は、30%前後を占めている。

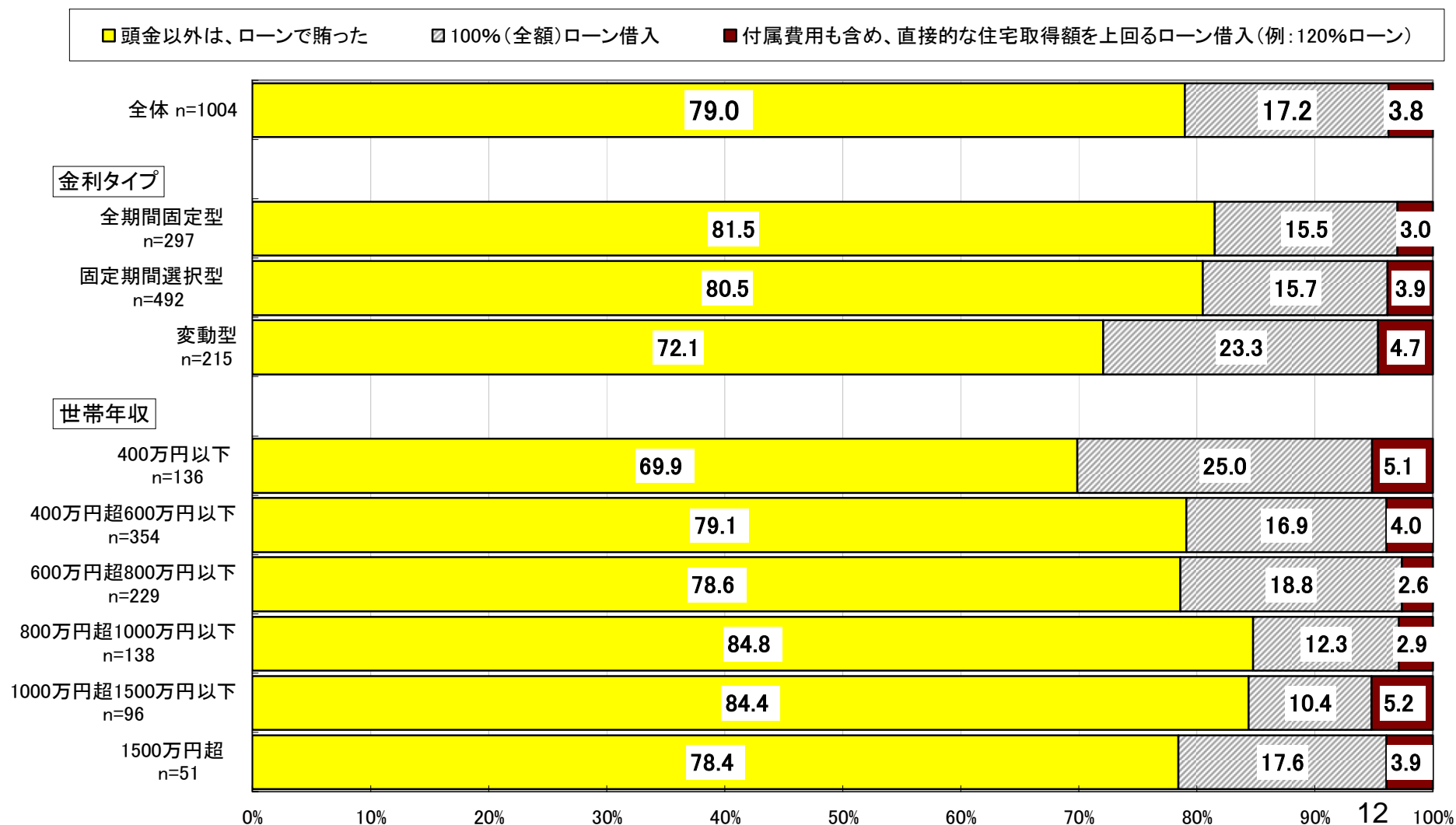
金利上昇に伴う返済額増加への対応<住宅ローン利用者>



1.1. 住宅ローンの借入状況 <住宅ローン利用者>

「100%ローン」「120%ローン」は、全体の21.0%。「変動型」や「400万円以下」では30%前後となっている。

住宅ローンの借入状況(金利タイプ、世帯年収)



【参考】 回答者の基本属性

【住宅ローン利用者】 n=1004

項目	サンプル数	構成比%
年齢	20歳代	173 17.2
	30歳代	607 60.5
	40歳代	178 17.7
	50歳代	46 4.6
世帯年収	400万円以下	136 13.5
	600万円以下	354 35.3
	800万円以下	229 22.8
	1000万円以下	138 13.7
	1500万円以下	96 9.6
	1500万円超	51 5.1
地域	首都圏	418 41.6
	東海圏	79 7.9
	近畿圏	180 17.9
	その他	327 32.6
住宅の種類	注文新築	490 48.8
	(うち敷地同時取得)	218 44.5
	注文建替え	44 4.4
	新築建売	74 7.4
	新築マンション	239 23.8
	中古戸建	69 6.9
中古マンション	88 8.8	
金利タイプ	全期間固定型	297 29.6
	(うちフラット35)	158 53.1
	固定期間選択型	492 49.0
	変動型	215 21.4
返済負担率	10%以内	119 11.9
	15%以内	231 23.0
	20%以内	282 28.1
	25%以内	192 19.1
	30%以内	101 10.1
	35%以内	46 4.6
	40%以内	14 1.4
	40%超	19 1.9

注： 首都圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
 東海圏：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
 近畿圏：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
 その他：首都圏、東海圏、近畿圏以外